心不全を発症した低収縮非拡張型心筋症の臨床的意義における後ろ向き研究

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: 2021 年 2 月 19 日 ～ 2025 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 心不全を発症した低収縮非拡張型心筋症の臨床的意義における後ろ向き研究

〔研究目的〕

拡張型心筋症は、慢性心不全症状を特徴とし急性増悪を繰り返す予後不良・進行性の疾患です。拡張型心筋症は、「(1)左室のびまん性収縮障害と(2)左室拡大を特徴とする疾患群」と定義されています。一方で、典型的な左室拡張がなくとも、収縮力のみが低下する病態(HNDC)が存在していることが報告されている。しかし、HNDC の予後については, 明確な調査がないのが現状です。本研究の目的は、心不全を発症し、心臓 MRI 検査にて HNDC と診断された症例の MRI 所見および1年予後を、拡張型心筋症と比較検討することです。

〔研究意義〕

HNDC と診断された患者さんの心臓 MRI 所見および 1 年後予後を、IDCM を対象として比較検討し、HNDC の臨床的意義を後ろ向きに検討することです。

〔対象・研究方法〕

当院において 2015 年 7 月から 2020 年 3 月までに心臓 MRI 検査を施行し、シネ MRI にて心機能を評価された患者さんの中で、20歳以上の方を対象とします。HNDC 例の左室駆出率、左室拡張末期容量、左室収縮期末期容量、1 回心拍出量、左室心筋重量値およびガドリニウム遅延造影の有無を、特発性拡張型心筋症群と比較します。さらに、1 年予後を比較します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部内科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

「臨床研究における記録保管に関する標準業務手順書」に従います。研究に携わる関係者は研究対象者の個人情報保護に最大限の努力をはらいます。研究責任／分担医師は、匿名化したデータを用い、個人を特定できる情報(氏名・住所・電話番号など)は記載しません。研究責任医師は、当該臨床研究の実施に係る記録(文書および電子記録)を研究終了後 TARC に 10 年間保存し、その後破棄いたします。

〔その他〕

本研究は、後ろ向きの疫学調査であり、患者さんへの経済負担や支払いは生じません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:帝京大学医学部内科学講座　准教授　横山直之
研究分担者:帝京大学医学部内科学講座　大学院生　池田佳之
住所:　TEL:03-3964-1211 （代表）〔内線　30415〕